

みずほマーケット・トピック(2022 年 12 月 9 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

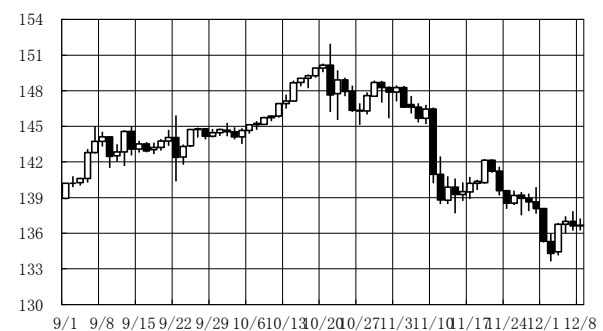
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週前半に上昇も、その後は伸びを欠いた。週初5日、134.45円でオープンしたドル/円は前週末からのドル売りを受け一時週安値となる134.14円まで下落も、五・十日のドル買いに支えられ134円台半ばでのレンジ推移となった。海外時間は、米11月ISM非製造業景気指数が市場予想を上回る堅調な結果となると、米金利上昇とともにドル/円も136円台後半まで上昇した。6日、ドル/円は前日からのドル買い相場が継続する中、137円台前半まで上値を伸ばした。海外時間は前日までの米金利上昇が一巡し、一時136円を割ったものの、その後は株式市場が軟調地合いとなる中で、リスクオフのドル買いが優勢となり137円台を回復した。7日、ドル/円は実需のドル買いや米金利上昇を受け、一時週高値となる137.85円まで上昇。海外時間は、米7~9月期単位人件費(確報)が速報時点から大きく下方修正されたことが材料視され、米金利低下とともに136円台に下落した。8日、ドル/円は仲値にかけてドルが買われ、一時137円台を回復したが、海外時間は、相場材料に欠く中で、米金利の変動に振られ、136円台後半を方向感なく推移した。本日のドル/円も引き続き136円台後半での取引となっている。
- 今週のユーロ/ドルは動意に乏しい展開も、小幅に上昇した。週初5日、1.0545でオープンしたユーロ/ドルは前週末からのドル売り相場の中、一時週高値となる1.0595まで上昇したが、NY時間では堅調な米経済指標の結果を受け、1.04台に下落した。6日、ユーロ/ドルは米金利が低下したことで、1.05台を回復したものの、NY時間ではリスクオフのドル買いから1.04台後半まで反落した。7日、ユーロ/ドルは実需のドル買いや米金利上昇を受け、一時週安値となる1.0444まで下落。ロンドン・NY時間にはユーロ圏7~9月期GDP(確報)が市場予想を上回ったことや、軟調な米経済指標から欧米金利差が縮小し、再度1.05台を上抜けた。8日、ユーロ/ドルはドル買い相場の中、1.05を割る場面も見られたが、NY時間には米金利低下とともに1.055レベルまで上昇。本日のユーロ/ドルも引き続き前日の高値圏での取引となっている。

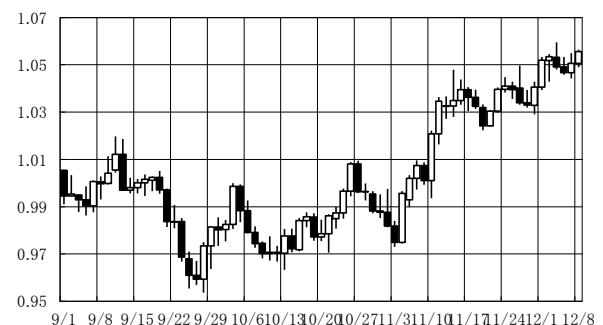
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

ドル/円相場の動向

		前週末	今 週			
		12/2(Fri)	12/5(Mon)	12/6(Tue)	12/7(Wed)	12/8(Thu)
ドル/円	東京9:00	135.18	134.45	136.59	136.89	136.39
	High	135.98	136.83	137.42	137.85	137.25
	Low	133.62	134.14	135.98	136.23	136.26
	NY 17:00	134.34	136.80	137.03	136.57	136.69
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0526	1.0545	1.0496	1.0467	1.0511
	High	1.0545	1.0595	1.0533	1.0550	1.0565
	Low	1.0430	1.0481	1.0460	1.0444	1.0489
	NY 17:00	1.0541	1.0493	1.0474	1.0505	1.0555
ユーロ/円	東京9:00	142.31	141.79	143.35	143.21	143.35
	High	142.44	143.58	144.00	144.56	144.32
	Low	140.79	141.76	143.15	143.21	143.28
	NY 17:00	141.53	143.51	143.43	143.48	144.24
日経平均株価		27,777.90	27,820.40	27,885.87	27,686.40	27,574.43
TOPIX		1,953.98	1,947.90	1,950.22	1,948.31	1,941.50
NYダウ工業株30種平均		34,429.88	33,947.10	33,596.34	33,597.92	33,781.48
NASDAQ		11,461.50	11,239.94	11,014.89	10,958.55	11,082.00
日本10年債		0.25%	0.25%	0.25%	0.25%	0.25%
米国10年債		3.49%	3.58%	3.53%	3.42%	3.49%
原油価格(WTI)		79.98	76.93	74.25	72.01	71.46
金(NY)		1,809.60	1,781.30	1,782.40	1,798.00	1,801.50



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、13日(火)～14日(水)にFOMCが開催される。前回11月会合では政策金利の誘導目標を+75bp引き上げ、3.75～4.00%することを決定。声明文では、金融政策が実体経済並びにインフレに及ぼすラグを考慮する旨が追記。議長会見では、近い将来の利上げ幅縮小や、ターミナルレートの引き上げが示唆された。なお、パウエルFRB議長は、11月末の講演において12月会合での利上げ幅縮小を重ねて示唆。片や、パウエル議長筆頭にFRB高官はターミナルレートの水準に関し明言を避けている。今回更新されるドットチャートは+25bpへのさらなる利上げ幅縮小を含めた今後の利上げペースに加え、ターミナルレートの具体的な水準感を分析する上で大きな材料となろう。また、更新予定の経済物価見通し(SEP)においては、今後の金融政策を見通すベースとなる経済・物価の現状認識を確認できる。なお、13日(火)に11月消費者物価指数(CPI)が公表予定でこちらの結果も引き続き注視したい。
- 欧州では、15日(木)にECB政策理事会が開催予定。前回10月会合では、+75bpの利上げを継続。2会合連続での+75bp引き上げはECB史上初であり、主要政策金利は2009年以来の高水準となった。利上げ回数や中立金利に関しては明言を避ける中、12月会合では経済・物価見通しやリセッションの可能性、ラグを伴って現れる金融引き締めの効果などに基き利上げ幅を決定するとした。今会合では、+75bpの利上げを基本線とするが、11月消費者物価指数(HICP)が市場予想以上に減速したことで、+50bpを適切とする理事会メンバーの声も聞かれている。また、前回会合ではターゲット型長期流動性供給オペ第3弾(TLTRO3)の条件厳格化が決定され、12月会合で「拡大資産購入プログラム(APP)で購入した資産のポートフォリオに関する基本方針」を決定すると明言。今会合では、インフレ抑制の一環として、APP再投資に関し情報発信を行い、量的緩和の縮小にも本格的に着手すると予想される。

	本 邦	海 外
12月9日(金)	—————	・米11月生産者物価指数 ・米12月ミシガン大学消費者マインド(速報)
12日(月)	・11月企業物価指数 ・11月工作機械受注(速報)	—————
13日(火)	—————	・独12月ZEW景気期待指数 ・米11月消費者物価指数 ・米FOMC(14日まで)
14日(水)	・10月コア機械受注 ・日銀短観(12月調査) ・10月鉱工業生産(確報)	・英11月消費者物価指数 ・米11月輸出/輸入物価指数 ・パウエルFRB議長会見
15日(木)	・11月貿易収支	・ユーロ圏ECB政策理事会 ・米11月小売売上高
16日(金)	・12月製造業/非製造業PMI(速報)	・ユーロ圏12月製造業/非製造業PMI(速報) ・ユーロ圏11月消費者物価指数(確報) ・米12月製造業/非製造業PMI(速報)

【当面の主要行事日程(2022年12月～)】

FOMC(12月13～14日、1月31～2月1日、3月21～22日)

ECB政策理事会(12月15日、2月2日、3月16日)

日銀金融政策決定会合(12月19～20日、1月17～18日、3月9～10日)

市場営業部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2022年12月6日	ECB政策理事会プレビュー～2つの注目点～
2022年12月5日	「日本人の円売り」は一過性の懸念で終わるのか？
2022年12月2日	週末版(135円台で考える「安い日本」～名目円高では解決しない根深い問題～)
2022年12月1日	まだ警戒が必要なユーロ圏のインフレ情勢
2022年11月29日	ECB議事要旨を受けて～開き始めたFRBとの差～
2022年11月28日	FOMC議事要旨を受けて～利上げ幅縮小に新味なし～
2022年11月25日	週末版
2022年11月24日	投機ポジションで見るドル・円・ユーロの概況
2022年11月22日	消費増税以上の威力を示した40年ぶりのCPI
2022年11月21日	最高難度の局面に挑むECB～多様な「不況下の物価高」～
2022年11月18日	週末版(本邦7～9月期GDPを受けて～購買力の悪化は悲惨な状況～)
2022年11月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年10月分)
2022年11月16日	FRBは今、何を考えているか？～蘇る平均インフレ目標～
2022年11月15日	実質ベースで考えるドル/円相場のオーバーシュート
2022年11月14日	ユーロ相場の現状と展望～金利・需給面の整理～
2022年11月11日	週末版(2022年度上半期の経常収支状況を受けて～所得収支の還流が最後の手札～)
2022年11月10日	金利面から見たドル/円相場の現状と展望
2022年11月9日	ユーロ圏経済の近況について～スタグフレーションの淵～
2022年11月4日	週末版
2022年10月28日	週末版(ECB政策理事会を終えて～政策間の整合性が問われる状況に～)
2022年10月27日	ECB政策理事会プレビュー～再投資の行方～
2022年10月25日	製造業の国内回帰報道をどう理解するか？
2022年10月24日	圧倒的なファンダメンタルズ～円高は押し目という新常識～
2022年10月21日	週末版(半分になった円の価値～150円到達で何を思うか～)
2022年10月19日	天然ガス価格上限設定について～史上最も厳しい冬～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年9月分)
2022年10月18日	通貨高競争の足音～G20議長総括から何を読むか～
2022年10月17日	トラス英政権の軌道修正～機能した市場のアラーム～
2022年10月14日	週末版
2022年10月13日	FOMC議事要旨を受けて～2023年も高金利～
2022年10月12日	「季調済み経常収支、2か月連続で赤字」の意味
2022年10月11日	年初来ピークに達したイタリアの対独スプレッド
2022年10月7日	週末版(国連の正論をどう受け止めるか～とはいえ利上げ停止は不可能～)
2022年10月6日	水際対策完全撤廃を前に論点整理
2022年10月4日	散見され始めたドル暴落説を検証する
2022年10月3日	「世界第2位の対外純債務国」の命運は政治次第
2022年9月30日	週末版
2022年9月27日	伊メローニ新政権、現実路線への修正は可能なのか？
2022年9月26日	英トラス新政権、「成長に賭ける」という危険な賭け
2022年9月22日	週末版(FOMCを終えて～「春になれば円安は止まる」の真実味～)
2022年9月20日	EUは冬を乗り切れるのか～結局、節電頼み～
2022年9月16日	週末版
2022年9月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年8月分)
	円安抑止としての日本版HIAの可能性
2022年9月13日	鎖国政策終了とその後の課題
2022年9月12日	動き出す家計部門の外貨運用～金融教育の先に～
2022年9月9日	週末版(ECB政策理事会を終えて～スタグフレーションとの闘いに挑むECB～)
2022年9月7日	金利差が本当にテーマになるのはこれから
2022年9月6日	ノルドストリーム1の再開延期とユーロ安
2022年9月5日	円安更新はどこまで続くのか～140円台突破を受けて～
2022年9月2日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～50bpか75bpか～)
2022年8月29日	ジャクソンホール経済シンポジウムを受けて
2022年8月26日	週末版(劣化する欧州経済の現状～読めないエネルギー供給とドイツのリセッションリスク～)
2022年8月24日	水際措置の緩和の評価～問題は上限ではない～
2022年8月23日	パリティ割れと欧州のインフレ動向について
2022年8月22日	顕著になる鎖国政策の副作用
2022年8月19日	週末版
2022年8月18日	過去最大を更新し続ける貿易赤字
2022年8月17日	生産者物価指数(PPI)と交易条件と円相場
2022年8月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年7月分)
	本邦4～6月期GDP～形ばかりの「コロナ前」回復～
2022年8月15日	独経済は不況の淵に～ライン川の水位低下～
2022年8月12日	週末版
2022年8月10日	独ライン川の水位低下とユーロ安リスク
2022年8月9日	2022年上半期の国際収支統計を受けて
2022年8月8日	ECBの再投資柔軟化はどこまで可能なのか？
2022年8月5日	週末版(ドル/円相場の近況をどう考えるか～歴史的な大相場は調整も非常に大きい～)
2022年7月29日	週末版(米4～6月期GDPの読み方～リセッション判断は尚早～)
2022年7月27日	IMF世界経済見通し(7月改定)を受けて
2022年7月25日	ドル/円相場の近況をどう評価するか？
2022年7月22日	週末版(ECB政策理事会を終えて～前門のインフレ、後門のリセッション、TPIという二番煎じ～)
2022年7月20日	ECBは7月+50bp利上げに舵を切るのか
2022年7月19日	パリティ割れの背景整理～歴史に学ぶ教訓～
2022年7月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年6月分)
	週末版(ユーロ圏景気とユーロ相場の展望～ユーロ安でこずるインフレ抑制～)
2022年7月14日	米インフレ加速も住宅市況には変調の兆しも
2022年7月12日	やはり顔を出し始めた新規感染者主義
2022年7月11日	リフレ政策の今後～悲報との因果関係はなし～
2022年7月8日	週末版(世論に効き始めた物価上昇圧力～日銀がスケープゴートにされる可能性～)
2022年7月7日	ユーロ相場急落の背景～ECBハト派化より重要なこと～
2022年7月5日	やはり反対していたドイツ～緊急政策理事会～
2022年7月4日	世界の外貨準備状況～22年3月末時点～
2022年7月1日	週末版(2年9ぶりのAPP停止と域内債券グルーピング構想～遂に始まる加盟国の階層化～)
2022年6月28日	家計金融資産は動き出すか～22年3月末の状況～
2022年6月27日	世界は通貨高競争へ～逆・近隣窮乏化策の始まり～
2022年6月24日	週末版(ECB緊急政策理事会の読み方～落ち着かないラガルド流～)
2022年6月22日	「ドル高の裏返し」とは言い切れない円安の近況
2022年6月21日	タカ・ハト両面を演じるECB～難しいナローパス～
2022年6月20日	疑似的な通貨危機の様相を呈する日銀運営